

首都大学東京 大学教育センター

年報（全学共通教育部門）

平成24年度

目次

大学教育センターに専属する教員の平成 24 年度における活動.....	2
大森 不二雄 教授	3
永井 正洋 教授.....	5
林 祐司 准教授.....	7
瀬戸崎 典夫 助教.....	9
渡辺 雄貴 助教.....	11

平成 24 年度『首都大学東京大学教育センター年報（全学共通教育部門）』には、平成 25 年 4 月 1 日に大学教育センターに在籍しており、他の学部・系ないし研究科等の業務を兼務せず、大学教育センターに専属する大森 不二雄 教授、永井 正洋 教授、林 祐司 准教授、瀬戸崎 典夫助教、渡辺 雄貴 助教 の 5 名の教員の平成 24 年度における教育・研究の状況について記載した。なお、他部局と兼担している教員については各自が所属する学部・系ないし研究科等で発刊している年報を参照されたい。

—平成 26 年 2 月 18 日 公開—

大学教育センターに専属する教員の平成 24 年度における活動

大森 不二雄 教授

高等教育論

担当科目

基礎ゼミナール

「グローバル人材」をめざす学び

研究実績の概要

高等教育、教育政策、教育社会学

グローバル化する知識社会に対応できる大学教育・大学院教育の在り方を探究する視点から、教育プログラム開発、教育の組織的質保証と戦略的経営の統合的枠組、教育政策に関する社会的分析等に関する研究を進めた。

その結果、査読付き論文2点を含む著作3点、学会発表7件など、学術的に高いアウトプットを産み出すとともに、直接・間接に教育の改善・改革に活かす実践的含意も豊富で、目標以上の成果を達成した。

C P, D Pに即した全学共通教育プログラムの検証に関する研究

世界の高等教育の趨勢、我が国の政策動向、国内外の大学の事例等を調査・分析することにより、本学の学士課程教育及び全学共通教育のこれまでの成果と課題を踏まえつつ、C P, D Pに即した全学共通教育プログラム等の改善・改革を図るための知見が得られた。

研究成果から得られた知見を大学教育センター長・教務委員長・基礎教育部会長・大学教育推進担当課長等と共有することによって、本学の教育改善に貢献した。

研究実績

学会発表

大森不二雄「熊本大学における教育改革～学長特別補佐の立場から～」大学教育学会第34回大会（於：北海道大学），2012年5月26日

大森不二雄・渡辺雄貴・永井正洋「ディプロマ・ポリシーの実質化のためのシラバス及びFDとの統合的枠組み」大学教育学会第34回大会（於：北海道大学），2012年5月27日

大森不二雄「英国における高等教育の質保証の動向」日本高等教育学会第15回大会（於：東京大学），2012年6月2日

大森不二雄「大学のガバナンスと教学マネジメント—英国の状況から見える日本の課題—」広島大学高等教育研究開発センター 公開研究会（於：広島大学），2012年6月21日

大森不二雄・渡辺雄貴「シラバス調査にみる授業実践と政策の影響」高等教育質保証学会第2

回大会（於：東京大学），2012年8月26日

大森不二雄「高等教育における Employability の育成」職業人教育システムのイノベーション
研究拠点形成プロジェクト中間成果報告会（於：キャンパス・イノベーションセンター東京）

2013年2月10日

Ohmori, Fujio “Institutional Management and Managers in Japanese Higher Education:
From the viewpoint of systemic and institutional governance”, Keynote Speech at
International Workshop on Higher Education Management, 28 March 2013, University of
Tokyo, Tokyo, Japan.

論文発表又は著書発行

【査読付き論文】

大森不二雄（2012）「貿易交渉と高等教育—グローバル化における政治経済の論理」国際教育学
会『クオリティ・エデュケーション』第4巻，11—43頁。

Ohmori, Fujio (2012) “Why is the Japanese Higher Education Still Conventional After Two
Decades of Reform?: Incremental Kaizen has never reached innovative restructuring”,
Paper presented at OECD-IMHE (Institutional Management in Higher Education) General
Conference 2012, 17-19 September 2012, OECD, Paris, France, pp.52—61 of the Research
Forum Papers.

【その他】

大森不二雄（2012）「大学教育と学修時間—中教審答申を批判的に読み解く」（アルカディア学
報 494），『教育学術新聞』第 2495 号（平成 24 年 9 月 5 日），2 頁。

科学研究費補助金

基盤研究(B)「大学院におけるエンプロイアビリティの育成に関する国際比較研究」（研究代表
者：大森不二雄、課題番号：22330232）平成 24 年度交付決定額 1,560 千円

基盤研究(B)「大学経営高度化を実現するアカデミック・リーダーシップ形成・継承・発展に関
する研究」（研究代表者：夏目達也、課題番号：22330213）平成 24 年度交付決定額 390 千円（分
担金）

基盤研究(B)「急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究」（研究代表者：米
澤彰純、課題番号：22330226）平成 24 年度交付決定額 260 千円（分担金）

特記事項

なし

永井 正洋 教授

情報教育

担当科目

情報基礎A
情報リテラシー実践 I
情報リテラシー実践 IA
情報リテラシー実践 IIA
情報リテラシー実践 IIB
情報科教育法 II

研究実績の概要

高等教育における情報教育の開発と評価

本年度は、新科目「情報リテラシー実践 I A」を実施したが、担当教員から学生のリテラシー不足が指摘された。一方、レディネス調査からも、学生の「コンピュータ等を使える」という意識が、多くの項目で 50%を超えず、あまり自信のない状態にあることが分かったと共に、客観テストの結果が他大学と比べ有意に低く、入学時の情報リテラシーが必ずしも十分でないことが推察されたので、I Aを若干基礎的な内容とすることを検討した。

情報教育の評価基準導出のための e ラーニングコンテンツの開発と検証

リテラシー評価のための e ラーニングコンテンツとして、レディネス調査を作成し実施した。結果、コンピュータ使用に関してあまり自信のないことが、主観調査項目の多くで 50%を超えないことから分かった。また、客観テストの部分も他大学と比べ若干低く、入学時の情報リテラシーが必ずしも十分でないことが示された。よって、主観調査と客観テストから同様の傾向が得られたことにより、特に主観調査の有用性を示唆できたと考える。

研究実績

学会発表

大森不二雄, 渡辺雄貴, 永井正洋 『ディプロマ・ポリシーの実質化のためのシラバス分析及び FD との統合的な枠組み』 (大学教育学会第 34 回発表要旨録, 166-167, 2012)

松波紀幸, 三浦信也, 友田早紀, 永井正洋 『小学校における学校経営等に IR(Institutional Research)の概念を導入する必要性』 (日本科学教育学会第 36 回年会 課題研究⑮ テーマ: 科学教育プログラムにおける評価の現状と課題 論文集 USB メモリ, 271-274, 2012)

畠山久, 永井正洋, 室田真男 『モバイルデバイスの特性を活かした防災学習システムの設計』

(日本教育工学会全国大会第 28 回講演論文集 CD-ROM, 571-572, 2012)

松波紀幸, 永井正洋, 貴家仁志 『デジタルペン等を活用した学習での児童の満足度を規定する潜在変数の抽出』 (日本教育工学会全国大会第 28 回講演論文集 CD-ROM, 755-756, 2012)

論文発表又は著書発行

松波紀幸, 永井正洋, 貴家仁志 『デジタルペンを活用した授業でのエキスパート等による学習支援の有効性』 (日本教育工学会論文誌, Vol.36, No.2, pp.111-123, 2012)

Masahiro NAGAI, Noriyuki MATSUNAMI ""A Case Study on Institutional Research at an Elementary School in Japan"" Learning Conference 2012 (The 19th International Conference on Learning) at London University, London, UK, Thematic Paper Sessions, August 14-16, 2012.

Noriyuki Matsunami, Shinya Miura, Saki Tomoda, Masahiro Nagai, Hitoshi Kiya ""Factors determining student satisfaction in a learning environment featuring the use of a digital pen at an elementary school in Japan"" SITE2013 at New Orleans, Louisiana, USA, 2241-2248, March 25-29, 2013.

科学研究費補助金

平成 23, 24, 25 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C), 課題番号 23501162, デジタルペンとマインドマップを用いた小学校における論理的思考力の育成, 研究代表者

特記事項

なし

林 祐司 准教授

キャリア形成

担当科目

基礎ゼミナール
キャリア形成
現場体験型インターンシップ

研究実績の概要

新卒採用に関する研究

本年度は、口頭発表を行うとともに国際誌に論文投稿を行った。新卒採用選考では人材の選別に加えて、選別した人材を組織に引きつけることが求められるが、そのためには採用選考が組織的公正に従ったものになる必要があるとされる (Gilliland, 1993, など)。本研究では、内定者が複数組織を選択する際に、組織的公正がいかなる効果をもたらすのかを、独自に実施したアンケート調査のデータを用い、実証的に解明した。

キャリア形成教育に関する研究

本研究では、大学生のキャリア形成を大学がどのように支援しているのかということについて分析を行った。まず、大学キャリアセンターにおける種々のイベントを整理した上で、大学が学生の就職を実現するために学生自身に対してどのようなコンテンツ作りを行うのかを明らかにした。また、そうした支援がはらむ問題について明らかにした上で、印象操作などの手法にばかりかまけた支援を行うのではなく、学生が自身の能力開発を行えるような支援こそ重要であると結論づけた。

研究実績

学会発表

- ・林 祐司「新卒採用活動における〈決めさせる選考〉の実証的検討」社会政策学会第 123 回大会、2012年5月
- ・林 祐司「新卒採用活動における決めさせる選考の実施に関する調査」報告」人材採用研究会、2012年8月
- ・立石慎治・渡辺 雄貴・林祐司・串本 剛「大学生における“学ぶことの大切さ”認識の特性分析」『日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集』 pp.411-412
- ・林 祐司「大学キャリアセンターの役割と課題～大学キャリアセンターにおけるマッチング～」日本人材マネジメント協会、2013年2月

論文発表又は著書発行

- ・林 祐司『新卒採用活動における決めさせる選考の実施に関する調査（平成 24 年度）報告書』2013 年 2 月
- ・林 祐司「書評：佐藤博樹『人材活用進化論』『日本労務学会誌』13（3）2012 年 12 月

科学研究費補助金

- ・「大学新卒採用活動における「決めさせる選考」の実証的検討」若手研究B、継続、2011～2013、研究代表者

特記事項

なし

瀬戸崎 典夫 助教

情報教育

担当授業

情報リテラシー実践 IA
情報リテラシー実践 IIA
情報リテラシー実践 IIB

研究実績の概要

ICT を活用した効果的な学習に関する検討

ICT を活用した学習の効果について検討した。特に、AR (Augmented Reality) ,TUI (Tangible User Interface) の技術を利用した教材を開発し、実践的な研究を行った。天文分野を事例とした AR テキストを評価した結果、CG モデルを重畳表示し、タブレット端末を活用した能動的な観察が、学習者にとって有効であることが示された。また、TUI を利用した能動的な学習によって、授業中に教授していない応用課題の得点が向上することが明らかになった。

研究実績の概要

学会発表

N. Setozaki, T. Iwasaki, Y. Morita, Examination of Effective Information Presentation Using an AR Textbook, Proceedings of 20th International Conference on Computers in Education (ICCE), 2012(Nov 26 - 30), Singapore, 426-428.

論文発表又は著書発行 (発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)

瀬戸崎典夫, 岩崎勤, 森田裕介, 多視点型天体教材を用いた授業実践における能動的学習の効果, 日本教育工学論文誌, 36(2), 2012(10月), 81-90.

瀬戸崎典夫, 上妻堯甫, 岩崎勤, 森田裕介, 2012, タブレット端末を活用した天体学習用 AR テキストの評価, 日本教育工学会論文誌, 36(Suppl.), 2012(12月), 185-188.

科学研究費補助金

H23-H24 若手(B) AR 教材における効果的な情報提示に関する研究 (研究代表者)

H24-H25 挑戦的萌芽 実空間と仮想空間をシームレスにつながる AR 学習支援システムの開発 (研究分担者)

特記事項

なし

渡辺 雄貴 助教

教育工学

担当授業

基礎ゼミナール

情報リテラシー実践 I A

情報リテラシー実践 II A

情報リテラシー実践 II B

研究実績の概要

大学教育におけるインストラクショナルデザインモデルの構築

学習成果に基づく大学教育改革が世界的趨勢となり、我が国でもディプロマ・ポリシー等による学士課程の体系化が求められる中、ポリシー・レベルで規定された学習成果を授業科目レベルにリンクし、実質化することが課題となっている。そこで本研究課題では、ポリシーと授業の接点であるシラバスに注目し、政策動向の影響を受けた大学の取組を経て、シラバスがどう変化したかを分析することにより、学習成果を科目レベルに落とし込むための課題を明らかにすることを目的とした研究を行なった。具体的には本学の設置初年度（2005年度）と現在（2011年度）の一般教養科目のシラバスを定量的・定性的に比較した。調査項目は、文字数の推移、記述方法の変化、頻出語の変動などである。その結果、シラバスの記述の量的・質的な充実が見られたものの、多くはコンプライアンス（規範遵守）面の対応にとどまっている可能性が示唆された。一方、学生主体の学習を示す用語の普及も見られた。これらの知見を、現在論文にまとめ、投稿する予定である。

ICTを活用した IR (Institutional Research) の調査研究

本研究では、国内外の動向を整理し、本学における IR (Institutional Research) の実務フレームを構築することと、教育工学的な知見を用いてどのように研究を実質化するかということをも目的に研究、開発を行なった。これらの知見を基に第 29 回日本教育工学会全国大会において、本研究代表者がコーディネーターとなったワークショップ「教育工学は IR にどのように貢献できるか」を開催し、報告した。さらに、米国ワシントン大学コミュニティーカレッジより、IRer である柳浦猛氏を本学に招聘し、米国において IR が大学において、どのように行なわれ、機能しているかをの調査、分析し、本学の方向性などを検討した。さらに、IR の方法論を援用し、様々な教育分野の情報分析の可否について検討を行なった。

新入生における「学ぶことの大切さ」の認識の変容に関する調査

本研究では、本学の学部生を対象に、学生が「学ぶことの大切さ」を如何に認識しているかについて質問紙調査を行い、分析を行った。因子分析（直接オブリミン回転，非反復推定法）の結果，4因子が得られた（「興味価値」「私的獲得価値」「利用価値」「公的獲得価値」）。因子構造と因子得点から，学生は大学での学習を積み重ねることで，学ぶことそのものに対して興味を持ち，また自己のキャリアなどの観点から“学ぶことの大切さ”を認識するようになる可能性が示唆された。

研究実績の概要

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）

大森不二雄，渡辺雄貴(2012) シラバス調査に見る授業実践と政策の影響，大学教育質保証学会第2回大会，83-84

大森不二雄，渡辺雄貴，永井正洋(2012)ディプロマ・ポリシーの実質化のためのシラバス分析及びFDとの統合的な枠組み，大学教育学会第34回発表要旨録，166-167

渡辺雄貴，大森不二雄（2012）学習成果と授業設計をリンクするシラバス作成に関する研究，日本教育工学会研究会研究報告集（JSET12-1），153-159

松田岳士，渡辺雄貴(2012)教育工学はIRにどのように貢献できるか，日本教育工学会第28回全国大会ワークショップ

立石慎治，渡辺雄貴，林祐司，串本剛（2012）大学生における"学ぶことの大切さ"認識の特性分析，日本教育工学会第28回全国大会講演論文集，411-412

科学研究費補助金

研究代表者：科学研究費補助金（若手研究(B)）多用な学習環境における学習方略を考慮した動画コンテンツクロスメディアモデルの構築（2012-2014）

研究分担者：科学研究費補助金（基盤研究（B））ピアチュータリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発（研究代表者 美馬のゆり）（2012-2014）

研究分担者：科学研究費補助金（基盤研究（C））デジタルペンとマインドマップを用いた小学校における論理的思考力の育成（研究代表者 永井正洋）（2011-2013）

研究分担者：科学研究費補助金（基盤研究（B））学生の自己管理学習を支援する教学IR情報提示システムの開発と評価（研究代表者 松田岳士）（2012-2015）

（新規）研究分担者：科学研究費補助金（基盤研究（C））大学生の学習活動との関係に見る成績評価の適切性（研究代表者 串本剛）（2012-2015）

特記事項

なし